

然るに恐慌にナイン資本主義国はロシアに対する反感を昂め

二日本の状態

イ 満州事変以来、年々支出される膨大な軍事費による軍需品の製造、金輸禁止、財政インフレによる円為替の著しい下落とソビエト連邦による日本商品の輸出増加は化学、機械、金属工業業等の發展をみるやうになり、いそは全工業にわたって利潤が失われ、生産物価格は上り、工場の新設拡張が進められる等、日本資本主義は昭和八年以後に於いて近來稀とみる状況を現わして来たやうである。

之を商品の生産についてみると化学、機械、金属、鉱山等その他二十五種の製造品は工業増加率の割合は次の如く（昭和五年と一〇として）

昭和六年 一・二 昭和七年 一〇・九 昭和八年 二二・五 昭和九年 一三・三

と増加を示しているが、その中でも特に軍需品、輸出品の増加が著しいのである。こうして生産の増加は歩調を合せて資本家共は工場の新設、設備の拡張を計画し、斯うして新設されたものは八年二四・七、九年は六月まで二一・八に達してゐるが、斯くの如く新設されてゐる会社は化学、機械、金属等、軍需品、輸出品貿易関係のあると、また当然である。では以上の如うな生産設備が拡張されてゐることによつて、生産は、ドンチエ台に増大してゆくであろうか。

人稱として計算されたところによれば（経済情報社「株式投資年鑑」九年版）

年	会社数	数量
九年六月末	一四	二六、五ト
九年七月末	一七	二六、九ト
十年六月末	二八	三五〇・〇

と存し年度の十年六月には実に六割一分七厘の生産増加と存するのである。また証券によつてみれば内地、朝鮮、満州における証券製造、会社及びガラス、製鉄会社等、現在年々百万キログラム製造されてゐるのが、各社の新設拡張によつて十年十二月末には、百五十万キログラム製造するやうになる。そして、かくの如き増産の計画は各工場とモテケンゲン起してゐるのである。而して、工場が新設され、設備が拡大され、商品がグンと増大してゆくのに應じて、一般勤勞大衆の購買力が工業、商品が消化されてゆくことが出来ぬと言へば、インフレーションは深つてあり得ることである。それでは、生産と消費との関係はどうなるか、

一 高小作業者地帯にシテ取り残された商品と税金の重荷を背負つてゐる三十万の農民は製糖品物を購買力がかぬからぬ。

一 所々は不景気の予兆の負債額をますます増やして行く。

一 九億三千才円の莫大軍事予算が全国に波及して増加するやうなことが、

一世間の資本主義各国は日本の商品を食べたいと、因循の引上から日本品輸入数量の制限、禁止年限をどうするかの輸出は今年減つてゆくであろう。